

5年度予算案の前進面を解説

鉏路市のR5年度の予算案が発表されました。国保料の値上げが盛り込まれるなど、相変わらず市民の願いに反するものが目立ちます。しかしその中で、村上議員の質問などで前進したものがいくつもありますので紹介します。



◎大楽毛地区に二か所の津波避難ビルができる

なんとといっても最大の前進は、大楽毛の津波避難ビル2棟の建設が予算に盛り込まれたことです。くりかえし「津波からのちを守るため、高層の建築物を」と提案し続けてきましたが、それがやっと実を結びました。

1棟は、大楽毛南4丁目のポリテクセンター横に建設される生活館・老人福祉センターに活用する施設で、地域でも一貫して建設要望を出していたものです。

もう1棟は大楽毛消防支署の敷地に、支署と消防分団庁舎と避難所の合築施設をつくりまします。これは村上議員が議会で建設を提言したものです。

生活館・老人福祉センターとなる施設は国庫補助が13億6千万円あまり見込めますが、事業費は22・4億円です。市の負担は8億7千万強です。一般的な津波避難タワーなら7棟ぐらいい造れるかもしれません。

暗所視支援眼鏡の補助が始まる

この一年半、村上議員が特に力を入ってきたのが、これです。



暗所視支援眼鏡の一式

網膜色素変性症という難病の典型的な症状の「夜盲」、治療法はありません。コンピューターの画像処理で、暗

くても昼間のように明るく映し出し、夜盲があっても普通に見える眼鏡です。価格は40万円以上。患者は非課税世帯なら無料で、課税世帯なら1割を負担するだけで購入できます。

村上議員の母親もこの病気です。議員自身も、患者会の世話役をずっとしてきたこともあり、患者や関係者にとっても喜ばれています。

特に若くて働いている人が、薄暗い所での仕事をするときや、夜の帰宅の際の支えになると思います。

◎グリーン団地A棟建設

村上議員の自宅の近くにある老朽化した阿寒の市営住宅の建て替え事業です、念願の第一棟が着工、来年1月には6戸が入居できます。住民要望を議会で取り上げたり、個別の案件についても阿寒の建設課と話し合ったりと、建設を後押ししてきました。2

棟目以降の早期着工や、阿寒湖、音別の市営住宅建設も進めていきます。

◎公用車に電気自動車導入

「地球温暖化防止のために、市の公用車を電気自動車に切り替えよ」と提言してきました。いよいよ今年、市の公用車としては初めての電気自動

車が購入されます。

◎動物園入り口の

「石積み」の改修完了へ

動物園の正面をぐるっと「石積み」で囲っていますが、老朽化して崩れかけていて、とても危険でした。万が一、事故が起きたら大変とロープを回して、立ち入り禁止にしたり、通路や階段も一部使用禁止にしています。

議会質問で取り上げ、動物園のリニューアルの事業ともタイアップしながら、計画的に老朽箇所を修繕し、新しく石を積み直してきました。施工可能な業者が限られることから、一定の年数がかかりましたが、5年度で完了する見通しが立ちました。

◎星が浦川、新河道に切り替え

鶴野の雨水対策の条件整う

村上議員が20年前の初質問以来、関わってきたのが、鶴野地区の雨水被害対策です。

問題は星が浦川の流量が小さく、鶴野地区の雨水を流し切れないことでした。いち早く、星が浦川の河川改修を提案。事業費が巨額になるため、一朝一夕には進みませんでした。地域の住民パワー、党派を超えた西部地域の議員の取り組みもあって、河川改修が始まりました。5年度には、新しい河道に水が流れることとなります。

河川まで雨水を引っ張ってくる「雨水管」の本格的な整備は、まだまだですが、鶴野地区の雨水対策がこれから大きく前進することは間違いありません。



村上かずしげ通信

23年2月26日号

発行 共産党市議団 23-5212